

国語総合

--	--	--	--

教 科	国 語	単位数	4 単位	学科・学年・コース・組	普通科 1 年
使用教科書	数研出版「新編国語総合」(国総351)				
副 教 材 等	国語辞典、古語辞典、常用漢字ダブルクリア (尚文出版)、国語便覧 (数研出版)				

1 学習の到達目標

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

2 学習の計画 (どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む。)

月	時数	単元名 単元目標	教材名	学習内容 【言語】-単元で取り上げる言語活動	主な評価規準の具体例
4	5	<b>現代文編 随想 (一)</b> ・文章の内容を叙述に依 じて的確に読み取る。 ・文章の構成や内容を確 かめ、筆者の意図をと らえる。 ・語句の意味や用法を理 解し、語彙を豊かにす る。 ・常用漢字の読みに慣 れ、また正しく書く。	世界は一つのク ラスルーム	・随想のおもしろさを味わわせ、その魅力を 理解させる。 ・クラスの中での役割を社会的視点で考え る創造力を育む。 ・自分自身の興味関心について意識し、ク ラスメイトと共有することを促す ・自分の好きなものやことについて紹介する 文章を書かせる。 ・自分の好きなものやことは将来にどのよ うにつながっていくか、想像して発表させ る。	・指示語に注意して文脈を的確に読み取っ ている。【読】(記述の点検) ・表現に込められた筆者の意図をとらえて いる。【知・理】(記述の分析) ・正しく理解し使いこなせる言葉の数を増や している。【知・理】(行動の分 析) ・常用漢字の音訓を正しく読み、また文脈に 応じて正しく書いている。【知・理】(記述 の点検)
	6	<b>現代文編 評論 (一)</b> ・文章の内容をふまえ て、自分が愛着を持っ ているものについて発 表すること。 ・語句の意味や用法を理 解し、語彙を豊かにす る。 ・常用漢字の読みに慣 れ、また正しく書く。	ものづくり	・便利と快適だけを求めるようになった 人間が失いつつあるものを読み取ると 共に、生徒自身の生活を振り返らせ具 体的に実感させる。 ・「精神的な豊かさ」を手に入れるため にはどのような緒などが読み 取ると共に、本文を踏まえて生徒自身 に今後の生き方を考えさせる ・筆者の主張を実現するための具体例を自 分で考えて発表させる。	・文章に述べられた現代社会の風潮と筆者 の問題意識との関係を的確にとらえてい る。【読】(記述の点検) ・同音異義語を文脈に応じて正しく書 き分けている。【知・理】(記述の点 検) ・常用漢字の音訓を正しく読み、また 文 脈に応じて正しく書いている。 【知・ 理】(記述の点検)
5	6	<b>現代文編 表現 1</b> ・目的や場に応じて、効 果的に話す。 ・話したり聞いたりしたこ との内容や表現の仕方 について自己評価や 相互評価を行い、自分 の話し方や言葉遣い に役立てる。	スピーチ	・スピーチの材料を探す過程で自分自身を 振り返り、話題について自分の意見を 持たせる。 ・スピーチの言葉を吟味し、その方法を工 夫することにより、「書く」「話す」表現技 術を磨かせる。 ・相互評価や意見交換をすることにより、 「話す」「聞く」能力を高め、お互いの理 解を深め共感しあう関係を作らせる。 ・状況に応じた話題を選んでスピーチさせ る。	・何のために、誰に向かって、どのような条 件で話すのかを考えて、それにふさわし い話し方をしている。【話・聞】(行動の観 察) ・表現の仕方についての評価を通して得た ことを、話す速度や抑揚、間の取り方など を改善することに生かしている。【話・聞】 (行動の確認)
	8	<b>現代文編 小説 (一)</b> ・文章に描かれた人物、 心情を表現に即して読 み味わう。 ・文章の構成や展開を確 かめ、筆者の意図をと	とんかつ	・物語の展開を読み取りながら、登場人 物の心情や性格などを読み取らせる。 ・短編小説に施された仕掛けを読み取 り、小説を読む楽しさを学ばせる。 ・語り手の存在に注意しながら本文を音読 させる。	・文体の違いによる特色について理解して いる。【知・理】(行動の観察) ・本文の語り手と登場人物を把握し、語り手 の登場人物への印象を場面ごとにまと め、印象の変化を追っている。【読】(行 動の観察・記述の点検) ・語り手の視点から状況を読み取り、登場人

		<p>らえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにする。</li> <li>・常用漢字の読みに慣れ、また正しく書く。</li> </ul>			<p>物の心情に迫っている。【読】(行動の分析・記述の分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正しく理解し使いこなせる言葉の数を増やしている。【知・理】(行動の分析)</li> <li>・常用漢字の音訓を正しく読み、また文脈に応じて正しく書いている。【知・理】(記述の点検)</li> </ul>
6	6	<p><b>現代文編 表現4</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・論理の構成や展開を工夫して自分の考えを文章にまとめる。</li> <li>・優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を</li> </ul>	意見文	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構成に工夫して具体的で説得力のある意見文を書かせる。</li> <li>・文章推敲の必要性を理解し、的確な文章表現を目指す。</li> <li>・出典を明示して文章や図表などを引用し、意見文を書かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えの妥当性を裏付ける、客観性や信頼性の高い資料を用い、自らの論が成り立つ根拠を示している。【書】(記述の確認)</li> <li>・自分や他の生徒が書いた文章を評価し、直すべき点を明らかにしている。【書】(記述の分析)</li> <li>・主な常用漢字を文脈に応じて正しく書いている。【知・理】(記述の確認)</li> </ul>
	2	<p><b>古文編 入門</b></p>	古文に親しもう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古文の仮名遣いに注意しながら音読させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古文とは何かを理解し、その学習範囲を理解する。【知・理】(記述の確認)</li> <li>・歴史的仮名遣いについて理解している。【知・理】(記述の確認)</li> </ul>
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語文化の特質に気付き、伝統的な言語文化について理解する。</li> <li>・文語のきまりや語句の意味を理解する。文章に描かれた人物、心情を表現に即して読み味わう。</li> <li>・言語文化の特質に気付き、伝統的な言語文化について理解する。</li> <li>・文語のきまりや語句の意味を理解する。</li> </ul>	児のそら寝	<ul style="list-style-type: none"> <li>・優しい文章に触れ、古文に親しませる。</li> <li>・説話の面白さを味わうことで、それらの話を伝えた古人の思いを考えさせる。</li> <li>・何度も音読し、歴史的仮名遣いに慣れさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を表現に即して読み、「児」や「僧」の心情や人物像をとらえている。【読】(行動の確認)</li> <li>・古語と現代語の共通点、相違点について気付いている。【知・理】(行動の観察)</li> <li>・歴史的仮名遣い・語句の意味について理解している。【知・理】(記述の確認)</li> </ul>
	6	<p><b>古文編 徒然草</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。</li> <li>・文語のきまりや語句の意味を理解する。</li> </ul>	高名の木登り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書かれている内容を正確に読み取り、「油断、安心は失敗につながる」という教訓を読み取らせる。</li> <li>・繰り返し音読を行い、和漢混淆体の文体に慣れさせ、古文に親しませる。</li> <li>・兼好法師や徒然草について調べてまとめさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物とその言動を読み取り、その事態を筆者がどうとらえているかを理解する。【読】(行動の確認)</li> <li>・品詞の種類について理解している。【知・理】(記述の点検)</li> <li>・語句の意味について理解している。【知・理】(記述の確認)</li> </ul>
	7	<p><b>現代文編 詩</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価する。</li> <li>・文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにする。</li> <li>・文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価する。</li> </ul>	六月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定型詩に馴染ませ、各連におけるリズムや構成の類似性を考えさせる。</li> <li>・繰り返し音読し、この詩にふさわしい朗読方法を工夫させる。</li> <li>・情景や心情の描写を取り入れて、詩をつくらせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・詩の構成やリズム感を確かめ、その特徴について考察している。【読】(行動の観察)</li> <li>・詩の構成やリズムが、表現上の特別な効果を生み出すことがあることを理解している。【知・理】(行動の観察)</li> </ul>
7			サーカス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・詩に凝らされている視覚的な工夫をとらえさせる。</li> <li>・詩に凝らされている聴覚的な工夫を捉えさせる。</li> <li>・文章に描かれた情景について話し合いをさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブランコの揺れやサーカス小屋を表現するためにどのような語句、表現の技法が用いられているかを考察している。【読】(行動の観察)</li> <li>・正しく理解し使いこなせる言葉の数を増やしている。【知・理】(行動の分析)</li> <li>・詩の形態や文体の違いによる特色について理解している。【知・理】(行動の観察)</li> </ul>
9	2	<p><b>漢文編 入門</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにする。</li> </ul>	訓読のきまり 格言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り返し音読し、漢文の口調に慣れ親しませる。</li> <li>・返り点と送り仮名の決まりに従って漢文を読み、また訓点を施すことができようさせる。</li> <li>・書き下し文の決まりを理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢文訓読の文体に注意しながら読んでいる。【読】(行動の観察)</li> <li>・漢文訓読の文体が、現代語の文章表現の骨格の一つとなっていることに気付いている。【知・理】(行動の観察)</li> <li>・訓読のきまり(訓点を用いた訓読方法・書き下し文)を理解している。【知・理】(記述の点検)</li> </ul>
	4	<p><b>漢文編 故事</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。</li> <li>・我が国の文化と外国文化との関係に気付く。</li> </ul>	助長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「助長」という故事成語の成り立ちに触れさせる。</li> <li>・宋人の行動とその子の対応の面白さを読み取らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢語が、現代語の文章表現の骨格の一つとなっていることに気付いている。【知・理】(行動の観察)</li> <li>・訓読のきまり(書き下し文の原則)を理解している。【知・理】(記述の点検)</li> <li>・日本語としての「助長」という言葉が歴史的にみてどのように成立してきたかを理解し</li> </ul>

10	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訓読のきまりについて理解する。</li> <li>・国語における言葉の成り立ちを理解する。</li> <li>・常用漢字の読みに慣れ、また正しく書く。</li> </ul>	漁夫の利	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「漁夫の利」という故事成語の成り立ちに触れさせる。</li> <li>・意地を張り合うやりとりの面白さを読み取らせる。</li> </ul>	<p>ている。【知・理】(記述の確認)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢語が、現代語の文章表現の骨格の一つとなっていることに気付いている。【知・理】(行動の観察)</li> <li>・訓読のきまり(否定の「不」の用法)を理解している。【知・理】(記述の点検)</li> <li>・日本語としての「漁夫の利」という言葉が歴史的にみてどのように成立してきたかを理解している。【知・理】(記述の確認)</li> </ul>
	8	<b>現代文編 小説(三)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章に描かれた人物、心情を表現に即して読み味わう。</li> <li>・語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにする。</li> </ul>	カレーうどん	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表面の現れる行動や態度とそれをもたらす心理の関係について読み取らせる。</li> <li>・学校行事や日常会話を通して親交関係を築いていく主人公の姿を理解させる。</li> <li>・自分という存在や親との関係について深く考えようとする姿勢を養わせる。</li> <li>・本文をふまえて自分にも学校行事を通して考え方や他者への見方が変わった経験がないかを話し合わせる。</li> <li>・作品を読み比べ、内容や表現の仕方について感想を發表させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章に描かれているストーリー展開を追い、人物の心情変化を表現に即して読み取っている。【読】(行動の観察・記述の点検)</li> <li>・同音異義語や慣用句を正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。【知・理】(記述の点検)</li> <li>・常用漢字の音訓を正しく読み、また文脈に応じて正しく書いている。【知・理】(記述の点検)</li> </ul>
	8	<b>現代文編 評論(二)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の構成や展開を確かめ、筆者の意図をとらえる。</li> <li>・語句の意味や用法を理解し、語彙を豊かにする。</li> <li>・常用漢字の読みに慣れ、また正しく書く。</li> </ul>	水の東西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二項対立型・具体的事物から 抽象的な考察へと展開する型の評論の読み方を学ばせる。</li> <li>・異なる二つの文化を比較することによって、それぞれの文化の特徴が明確に示されることを学ばせる。</li> <li>・身近な事物に興味を持たせ、そこからさらに思考を深めて行くことの重要性に気付かせる。</li> <li>・文章の内容をふまえて、日本と西洋の文化の違いについて書かせる。</li> <li>・段落の役割や対比関係に注意して読ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の具体例と抽象的表現を的確にとらえている。【読】(記述の点検)</li> <li>・文章の組立てについて理解している。【知・理】(記述の点検)</li> <li>・同音異義語について理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。【知・理】(記述の分析)</li> <li>・常用漢字の音訓を正しく読み、また文脈に応じて正しく書いている。【知・理】(記述の点検)</li> </ul>
	4	<b>現代文編 表現2</b> <p>話題について様々な角度から検討して自分の考えをもち、根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して意見を述べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりする。</li> <li>・対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書く。</li> </ul>	ブックトーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブックトークの意義を理解し、ブックトークをするための表現力や技術力を育む。</li> <li>・グループ活動を円滑に進めるためのスキルを獲得させる。</li> <li>・読書の意義を理解し、読書活動の活性化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブックトークのテーマ決め、グループでの話し合いに積極的に参加している。【話・聞】(行動の観察)</li> <li>・対象とする本の魅力を伝え、説得力ある紹介文を書いている。【書】(記述の分析)</li> <li>・ブックトークで聞き手をひきつける効果的な話し方をしている。【話・聞】(行動の観察)</li> </ul>
	4	<b>古文編 徒然草</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。</li> <li>・文語のきまりや語句の意味を理解する。</li> </ul>	神無月のころ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作者の思い描く「無常観」に基づく理想的な遁世生活を具体的に理解させる。</li> <li>・作者が捉えた人間の弱さとはどのようなものか理解させる。</li> <li>・月の異名と季節の関係を確認させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「庵の主人」に対する心情の表現について、どうして筆者がこのように描いているのかをとらえている。【読】(記述の確認)</li> <li>・語句の意味について理解している。【知・理】(記述の確認)</li> <li>・文語のきまり(格動詞「の」)を理解している。【知・理】(記述の点検)</li> </ul>
	11	8	<b>古文編 和歌</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読む。</li> <li>・我が国の伝統的な言語文化について理解する。</li> <li>・文語のきまりや語句の意味を理解する。</li> </ul>	万葉集  古今和歌集  新古今和歌集 百人一首	<ul style="list-style-type: none"> <li>・五七調のリズムに慣れるとともに、力強くのびやかな声調を体感させる。</li> <li>・短歌形式以外の歌体について理解させる。</li> <li>・七五調や三句切れのリズムを体感させる。</li> <li>・季節を感じる心や恋の気分を歌い上げた優美な歌風を味わわせる。</li> <li>・句切れや体言止めの和歌のリズムを体感させる。</li> </ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・印象的、感覚的な和歌の雰囲気や余情表現を味わわせる。</li> <li>・さまざまな和歌を読み比べ、好きな歌を選んで調べたことや感想を発表させる。</li> </ul>		
	8	現代文編 随想 (二)	減びるものは減びるままに	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者がクローン技術などに対して抱いている感情や考えを正しく理解させる。</li> <li>・地球に対して人間が行ってきたこと、これから行わなければいけないことを考えさせる。</li> <li>・結末部の筆者の問いかけに対して自分の考えをまとめさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「前者」「後者」などの語や指示語に注意して文脈を追い、筆者の意図する内容を的確に読み取っている。【読】(記述の点検)</li> <li>・筆者の主張に関わる具体例を本文から指摘し、主張とどのように関わっているのかを理解している。【知・理】(記述の分析)</li> <li>・正しく理解し使いこなせる言葉の数を増やしている。【知・理】(行動の分析)</li> <li>・常用漢字の音訓を正しく読み、また文脈に応じて正しく書いている。【知・理】(記述の点検)</li> </ul>
12	8	現代文編 評論 (三)	コインは円形か	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の認識が一面的になりがちであることを具体例を読み解くことで実感させる。</li> <li>・「レトリック感覚」がどのようなものであるかを理解し、その必要性を学ばせる。</li> <li>・接続語の役割を理解して、本文を読解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文を意味段落に分け、各段落の内容を端的に表す小見出しをつけることができる。【読】(行動の観察・記述の点検)</li> <li>・本文に則ってレトリックの意義や筆者の主張の背景を正しく説明できる。【読】(行動の観察・記述の点検)</li> <li>・日本語のレトリックについて理解し、効果的に表現する能力をつけている。【知・理】(行動の観察・記述の点検)</li> </ul>
	6	古文編 歌物語	芥川	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「歌物語」という文学ジャンルを知り、その特徴を理解させる。</li> <li>・『伊勢物語』の持つ「みやび」の精神が平安時代の文学を支えるものであったことに触れ、古文の世界への理解を深めさせる。</li> <li>・男の心情を丁寧で、物語の展開の面白さを味わわせる。</li> <li>・「白玉か…」の歌がクライマックスで見事な役割を果たしていることに気付かせる。</li> <li>・平安時代の文学史についての理解を深めさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地の文と和歌の関係をふまえて男の心情をとらえている。【読】(行動の観察)</li> <li>・文語のきまり(過去の助動詞・助動詞「ず」・接続助詞「ば」)を理解している。【知・理】(記述の点検)</li> </ul>
1	10	現代文編 小説 (二)	羅生門	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の心情を押さえていくことで、小説の面白さを感じさせる。</li> <li>・巧みな比喩表現や情景描写などの効果的な使い方を学ばせる。</li> <li>・作品の主題を自分自身の視点で考えさせる。</li> <li>・「人間とは何か」「真の善悪の価値観」への考えを深めさせる。</li> <li>・芥川龍之介並びに近代文学への関心・知識を深めさせる。</li> <li>・下人はこの後どうしたかを自分で考え文章にまとめさせる。</li> <li>・5W1Hをとらえて読むことができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章に描かれている人物の心情を表現に即して読み、その人物像をまとめている。【読】(行動の観察)</li> <li>・語句の意味には広がりがあることを理解している。【知・理】(行動の観察)</li> <li>・常用漢字の音訓を正しく読み、また文脈に応じて正しく書いている。【知・理】(記述の点検)</li> </ul>
2	4	現代文編 表現 3	手紙	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用件を伝える手紙の型を理解させる。</li> <li>・手紙の基本構成や特徴、書き方のマナーを理解させる。</li> <li>・電子メールと手紙を比較して、利点や注意点を理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の形態や文体、語句などに合った適切な表現の仕方を書いている。【書】(記述の確認)</li> <li>・相手や目的などによって、簡潔な述べ方や丁寧な述べ方、断定的な述べ方や婉曲的な述べ方などを適切に使い分けている。【書】(記述の分析)</li> <li>・手紙やメールに固有の表現の技法や語句の用い方などがあることについて理解している。【知・理】(記述の分析)</li> </ul>
	6	漢文編 唐詩	絶句と律詩	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国の詩の歴史の上で最高峰とされている唐詩に親しませる</li> <li>・少ない時数と定められた形の詩に表現された、作者の深い感情や自然描写の豊かさを読み味わいさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情景、心情を、どうして筆者がこのように描いているのかをとらえ、修辞の表現効果に気付いている。【読】(記述の確認)</li> <li>・和漢異義語「故人」について、日本語での意味と漢文での意味を理解している。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>我が国の文化と外国文化との関係について気付き、伝統的な言語文化への興味関心を広げる。</li> <li>漢詩のきまりについて理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>訓読による詩の響きを味わわせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【知・理】(記述の確認)</li> <li>漢詩の形式や語句・語彙の構造的な仕組みについて理解している。【知・理】(行動の観察)</li> </ul>	
6	漢文編 思想	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。</li> <li>我が国の文化と外国文化との関係について気付き、伝統的な言語文化への興味関心を広げる。</li> </ul>	論語	<ul style="list-style-type: none"> <li>東アジアの思想に大きな影響を与えた『論語』の思想の触れさせる。</li> <li>儒家思想への理解を深めさせる。</li> <li>慣用表現の知識を深めさせる。</li> <li>孔子の生き方や思想について調べて発表させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>孔子が理想とした生き方・人との関わり方を表現に即して読み取り、自身の生活経験から読み深めている。【読】(記述の確認)</li> <li>我が国の言語文化は、中国文化の受容とその変容とを繰り返しつつ築かれてきたことに気付いている。【知・理】(記述の点検)</li> </ul>
3	6	現代文編 小説(五)	沖縄の手記から	<ul style="list-style-type: none"> <li>戦争という行為の悲惨なありさまに触れさせる。</li> <li>沖縄戦に関することを調べ理解させる。</li> <li>情景描写が表す心情や人物の思想を読み取り、共感できるところ・できないところを話し合わせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>言動や情景の描写から、「私」の心情の変化を読み取っている。【読】(行動の確認)</li> <li>手紙に固有の文体や語句の用い方などがあることについて理解している。【知・理】(行動の確認)</li> <li>言葉遣いの変化が、心情の変化を表すことがあることを理解している。【知・理】(行動の確認)</li> </ul>

### 3 課題・提出物等

- 各単元において、学習プリントやレポート等を提出してもらいます。また、ノートや感想文、「相互評価表」なども提出してもらいます。その都度、先生から指示がありますので、よく聞いて提出期限の日までに提出してください。
- 7月の「校内弁論大会」に向けて意見文を書きます。日頃から新聞や読書を通して自分の考えを深め、表現できるようにしましょう。
- 夏休みの課題として、読書感想文を提出してもらいます。具体的な要項は夏休み前までに連絡しますが、日ごろから読書に親しむ生活を心がけましょう。
- 朝学の時間に学習する「常用漢字ダブルクリア」を授業でも使用します。しっかり取り組んで、漢字の基礎力をつけましょう。

### 4 評価規準・評価方法

評価は次の5つの観点から行います。

関心・意欲・態度	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	知識・理解
国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとしているか。	自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取ったりしているか。	自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章を書いているか。	自分の考えを深めたり発展させたりしながら、目的に応じて様々な文章を的確に読み取ったり読書に親しんだりしているか。	表現と理解に役立てるための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身に付けているか。
<p>これらの観点を踏まえ、各授業や単元ごとの具体的な評価方法としては、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業中の学習の様子(発表や討論の様子、学習活動への参加状況など)</li> <li>「話す・聞く」や「書く」学習の際の発表や評価表</li> <li>学習プリントやレポート、意見文、感想文などの提出物</li> <li>年5回実施する定期テスト</li> </ul> <p>なお、1学期・2学期・年間の評定は、上記の評価に加えて1・2学期の初めに行う実力テストの成績も含め、総合的に判断します。</p>				

### 5 担当者からのメッセージ

国語科では、3年間の国語の授業を通じて、社会人として通用する「話す力・聞く力」や「書く力」、また「読む力」を付けることを学習の目標としてしています。

1年生の「国語総合」は、中学校までの学習を踏まえ、引き続き、「現代文」「古文」「漢文」を総合的に発展的に学ぶ科目です。

また、科目の目標を踏まえつつ、折に触れて様々な言語活動を行います。それらの活動を通して、皆さんに高校生としてふさわしい「話す力・聞く力」や「書く力」といった表現力を育成します。

卒業後の進路目標達成に向け、基礎的な国語力を見つけるべく、しっかり学習していきましょう。